

いきいき協働事業評価シート

団体用

○ 協働事業の概要

記入年月日 令和 4年 3月 31日

事業名	小平市男女共同参画推進計画から考える連続講座事業
団体名	こだいらDV防止ネットワーク
担当課名	地域振興部市民協働・男女参画推進課
事業期間	令和3年5月7日～令和4年3月31日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

1 地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

地域のみなさんと共に、それぞれの講師の充実した講演を通して、誰もが自分らしく生きられる平等な社会を目指す男女共同参画に対して理解を深め、コロナ禍で顕在化した課題等を含め、ジェンダーにおける社会の問題の現状について考える機会を持てた。

参加者へのアンケートにも、得られた学び・気づきや、印象に残った言葉について多くの感想が寄せられている。

また、3回の講座各回の前に「小平アクティブプラン21[第四次小平市男女共同参画推進計画]策定のための地域懇談会」が同時開催され、説明と質疑応答、パブリックコメントの募集告知があった。参加者が講座の内容によって深められた考えを市に伝えることができる場を示すことができた。課題は多岐にわたり早急に解決される性質のものではないが、行政に反映し実現していけば解決していく未来が開かれるのではないかと期待する。

②団体の長所を、発揮させることが出来ましたか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開ができましたか。)

講座開催の経費や会場・備品の確保、公の告知など、市だから出来ることと、講師の選定や講座の企画・運営などで、これまでの団体メンバーの関わりや経験・発想と市民としての感性を活かすこと、それぞれの役割がはたされ、補い合い、協働事業を効果的・効率的に行うことが出来た。

③協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

これまでも男女共同参画センターの登録団体として担当課との交流があり、団体の理念や使命は理解してもらっていたと考える。本事業においては企画・準備の段階からお互いに丁寧に連絡をとり、コロナ禍の中ではあったが、必要に応じ対面による会議も適宜行うことが出来た。オンライン配信のリハーサルや当日の運営も、それぞれの役割を確認しつつ連携を図ることが出来た。会場でのオンラインによる講演視聴やオンライン配信は、団体の持つ機材やスキルだけで

は実現が難しく、協働事業で市の機材を使用し職員と団体メンバーの協力で運営が可能となったのは成果だった。

④改善提案がありますか。

コロナ禍による、事業実施の2020年度から2021年度への延期及び事業のテーマの変更については、庁内で決定された後私達市民団体側に通知があった。最終的な決定は市の責任で行うべきものであっても、協働事業の趣旨と照らせば、最終決定の前に市民団体側との協議や説明の機会が持たれるべきであったのではないかと考える。

コロナ禍のためオンラインという形式を使ったが参加人数は定員より少なかった。市報や広報の工夫、市職員の参加や関係者へのロコミでもっと多くの人に参加してもらう工夫が必要だった。

自由記載欄

男女共同参画についての講座を、市民と行政の協働事業として行うことが出来たのは、地域の一人一人にとっての人権や生きやすさに直結する問題に地域ぐるみで取り組むことにおいて意義のあることと考える。また、男女共同参画は、私たちの活動のテーマであるDVの防止にも問題の根の部分で結びついている。今回の市との協働による連続講座実施の機会を得ることが出来たことに感謝したい。